

プロジェクトG

歯科技工所の挑戦

②⑤ 中田デンタル・センター会長 中田唯夫

のは、昭和30年に歯科技工士見習いとして歯科医院に就職したのがきっかけだった。就職した時には歯科技工士の資格制度はまだなかったが、その2年後に特例歯科技工士として国家試験を受けるか、歯科技工士学校に入るかの選択を迫ら

たが社員だとして一生勤めたいと思える会社になりたいですか」「そういうビジョンを掲げていますか」「アドバイスされ、何もしていないなかったので、社是を作り、社会保険に加入し、退職金制度を作った。そして、経営内容を幹部

科技工の状況は日に日にデジタル技工が進歩し、それが歯科技工という職業にプラスに働くのかどうか先の読みにくい時代を迎えている。しかし、プラスになるように私たち歯科技工士が常に勉強して道を開くことが大切だと思う。『7対3』問題にしても、100%歯科技工士が買ったとしても、世間並みの給料と残業代の支払い、有休休暇を考えると、そう楽な経営ではないと思っている。

将来を保証する職場にする

院長から、「学校でしっかり勉強して歯科技工士になった方がいい」と言われ、愛歯技工専門学校(当時は愛歯技工士養成所)に入

社員に公開し、年1回は全社員で目標発表会をして会社の来期、中期、長期の目標を発表している。こうした経営見直しにより、令和2年4月現在、社員数は96名となった。平成18年には東京・練馬区にインプラント研究室をかねた本社ビルを建設。その3年後に私は社長を息子に渡し、会長に就任したが、今の歯

工士不足については「未来に夢がない」ため、われわれの責任ともいえる。待遇改善と職場環境、将来を保証する安心感を与えることである。そのためには業界が一致団結してその課題に取り組みることが大切だと思う。



歯科技工を取り巻く環境は私が開業した当時と比べて大きく様変わりした。私が開業したのは昭和40年4月だった。当時、歯科技工界は発展途上であり、海のものとも山のものとも分らないところがあったが、未知なる夢に溢れていたような気がする。

私が歯科技工士になった



●本社ビルの作業風景



社は昨年創業55周年を迎えたが、開業して10年頃、スタッフの数が15、20人規模から増えなかった。この

たが社員だとして一生勤めたいと思える会社になりたいですか」「そういうビジョンを掲げていますか」「アドバイスされ、何もしていないだったので、社是を作り、社会保険に加入し、退職金制度を作った。そして、経営内容を幹部